



2022年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年1月7日

上場会社名 株式会社エスクロー・エージェント・ジャパン

上場取引所 東

コード番号 6093 URL <http://www.ea-j.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 執行役員 (氏名) 成宮 正一郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部担当 執行役員 (氏名) 太田 昌景

TEL 03-6703-0500

四半期報告書提出予定日 2022年1月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績(2021年3月1日～2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	2,705	16.2	566	38.2	572	23.7	380	25.7
2021年2月期第3四半期	2,327	1.0	410	34.8	462	47.8	302	43.9

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 372百万円 (10.6%) 2021年2月期第3四半期 337百万円 (60.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	8.77	
2021年2月期第3四半期	7.13	7.09

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年2月期第3四半期	4,124	3,362	81.5	77.45
2021年2月期	3,820	3,155	82.6	72.80

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 3,362百万円 2021年2月期 3,155百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期		0.00		4.00	4.00
2022年2月期		0.00			
2022年2月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日～2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,517	14.5	500	1.6	502	8.5	336	7.6	7.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年2月期3Q	45,704,269 株	2021年2月期	45,630,483 株
期末自己株式数	2022年2月期3Q	2,295,935 株	2021年2月期	2,293,335 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年2月期3Q	43,376,774 株	2021年2月期3Q	42,465,078 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、引き続き持ち直しの動きに弱さがみられます。先行きの景気動向についても、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって持ち直しの動きが続くことが期待される一方で、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクの高まりに注意する必要があります。

当社を取り巻く環境については、テレワークの拡大による住宅ニーズの高まりや個人のインターネットバンキングの利用促進など、新しい生活様式に対応した需要が拡大しております。不動産市場においても、成約価格の上昇傾向が続くなど、首都圏中古マンション及び中古戸建住宅ともに活況が続いております。また、キャッシュレス化の急速な進展、ビッグデータ活用によるデジタル革新など社会環境が大きく変化し、金融機関をはじめとする様々な業界で、人を介さない非対面チャネルでの対応が多くの取引で技術的に可能となっております。

こうしたなか、当第3四半期連結累計期間においては、不動産オークション事業が堅調だったほか、不動産事業者向け非対面決済サービス「H'OURS（アワーズ）」や建設事業者向けサービスも好調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は2,705,225千円（前年同期比16.2%増）、営業利益は566,803千円（前年同期比38.2%増）、経常利益は572,487千円（前年同期比23.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は380,409千円（前年同期比25.7%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(エスクローサービス事業)

エスクローサービス事業においては、士業専門家、金融機関、不動産事業者に対し、不動産取引の効率性、利便性、安全性の向上に寄与する各種支援業務を行っております。また連結子会社の株式会社エスクロー・エージェント・ジャパン信託における信託サービス、相続手続き代行サービスでは決済の安全確保、財産保全等のニーズに対応しております。

当第3四半期連結累計期間においては、不動産事業者向けの非対面決済サービス「H'OURS（アワーズ）」が、前年と比較して利用件数が増加いたしました。一方、金融機関向けにおいては、ネット系銀行からの受注は堅調に推移したものの、全体の受注件数は伸び悩みました。

以上の結果、セグメント売上高は724,717千円（前年同期比2.1%減）、セグメント利益は530,601千円（前年同期比8.0%減）となりました。

(BPO事業)

BPO事業においては、金融機関における住宅ローン融資に係る業務受託をはじめ、事務合理化等、コスト節減ニーズに応じたサービスを提供しております。また、連結子会社の株式会社中央グループでは、建築・開発設計サービスや不動産鑑定サービス、人材派遣等による士業専門家への業務支援や建設事業者向け各種コンサルティングサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、金融機関向けの業務受託サービス等が増加したほか、連結子会社の株式会社中央グループにおける建設事業者向けサービスが堅調に推移いたしました。

以上の結果、セグメント売上高は1,502,035千円（前年同期比5.5%増）、セグメント利益は356,080千円（前年同期比17.7%増）となりました。

(不動産オークション事業)

不動産オークション事業においては、連結子会社の株式会社エスクロー・エージェント・ジャパン信託にて、主に税理士等の士業専門家からの相談に応じ、不動産の調査から取引決済まで安全性の高い不動産取引の機会を提供しております。これにより売買後のトラブルや紛争を未然に回避することができるほか、取引価格については入札方式を採用することによって透明性の高い価格形成が可能となり、不動産取引の効率性、利便性、安全性の向上に寄与しております。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症による営業活動の制限が緩和されたことにより、大型案件も含めたオークションによる決済件数が増加いたしました。

以上の結果、セグメント売上高は478,472千円（前年同期比192.7%増）、セグメント利益は174,494千円（前年同期比1,259.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は3,397,782千円となり、前連結会計年度末と比較して93,083千円の増加となりました。これは主に、売掛金が99,211千円増加したことによるものであります。固定資産は726,869千円となり、前連結会計年度末と比較して210,930千円の増加となりました。これは主に、ソフトウェア開発等により無形固定資産が115,196千円増加したことによるものであります。

以上の結果、総資産は4,124,652千円となり、前連結会計年度末と比較して304,013千円の増加となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は624,922千円となり、前連結会計年度末と比較して89,683千円の増加となりました。これは主に、買掛金が203,562千円増加したこと等によるものであります。固定負債は137,704千円となり、前連結会計年度末と比較して7,316千円の増加となりました。

以上の結果、負債合計は762,627千円となり、前連結会計年度末と比較して96,999千円の増加となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は3,362,025千円となり、前連結会計年度末と比較して207,014千円の増加となりました。これは主に、利益剰余金が207,060千円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は81.5%（前連結会計年度末は82.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の連結通期業績予想につきましては、2021年4月9日に公表いたしました業績予想数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,826,581	2,789,436
売掛金	395,439	494,650
その他	84,352	114,968
貸倒引当金	△1,673	△1,271
流動資産合計	3,304,699	3,397,782
固定資産		
有形固定資産	84,725	90,355
無形固定資産	149,925	265,122
投資その他の資産	281,288	371,392
固定資産合計	515,939	726,869
資産合計	3,820,638	4,124,652
負債の部		
流動負債		
買掛金	95,136	298,698
未払法人税等	138,226	91,201
賞与引当金	49,998	26,575
その他	251,877	208,446
流動負債合計	535,239	624,922
固定負債		
資産除去債務	34,665	37,415
退職給付に係る負債	36,046	—
長期未払金	—	36,046
その他	59,677	64,243
固定負債合計	130,388	137,704
負債合計	665,627	762,627
純資産の部		
株主資本		
資本金	647,065	647,065
資本剰余金	761,905	769,530
利益剰余金	2,267,736	2,474,796
自己株式	△548,271	△548,271
株主資本合計	3,128,436	3,343,121
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,574	18,904
その他の包括利益累計額合計	26,574	18,904
純資産合計	3,155,011	3,362,025
負債純資産合計	3,820,638	4,124,652

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	2,327,529	2,705,225
売上原価	1,204,697	1,412,505
売上総利益	1,122,832	1,292,719
販売費及び一般管理費	712,636	725,916
営業利益	410,195	566,803
営業外収益		
受取利息	24	20
受取賃貸料	12,000	12,020
投資事業組合運用益	49,807	374
その他	3,737	3,740
営業外収益合計	65,569	16,155
営業外費用		
支払利息	117	79
賃貸費用	9,890	10,289
株式交付費	1,743	—
その他	1,166	102
営業外費用合計	12,918	10,471
経常利益	462,847	572,487
特別利益		
新株予約権戻入益	238	—
特別利益合計	238	—
税金等調整前四半期純利益	463,085	572,487
法人税、住民税及び事業税	144,700	185,733
法人税等調整額	15,750	6,345
法人税等合計	160,451	192,078
四半期純利益	302,633	380,409
親会社株主に帰属する四半期純利益	302,633	380,409

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	302,633	380,409
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	34,522	△7,670
その他の包括利益合計	34,522	△7,670
四半期包括利益	337,155	372,738
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	337,155	372,738

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日 至2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エスクロー サービス	BPO	不動産オー クシヨン	計		
売上高						
外部顧客への売上高	740,524	1,423,526	163,479	2,327,529	—	2,327,529
セグメント間の内部 売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	740,524	1,423,526	163,479	2,327,529	—	2,327,529
セグメント利益	576,951	302,630	12,835	892,417	△482,221	410,195

(注) 1. セグメント利益の調整額△482,221千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない本社部門で生じた販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年3月1日 至2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エスクロー サービス	BPO	不動産オー クシヨン	計		
売上高						
外部顧客への売上高	724,717	1,502,035	478,472	2,705,225	—	2,705,225
セグメント間の内部 売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	724,717	1,502,035	478,472	2,705,225	—	2,705,225
セグメント利益	530,601	356,080	174,494	1,061,176	△494,373	566,803

(注) 1. セグメント利益の調整額△494,373千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない本社部門で生じた販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。